

「筋骨めぐり」隠れた人気

家と家の間の狭い「筋骨」を歩く参加者＝下呂市金山町で

下呂市金山町の中心部で、狭い路地裏を回る「筋骨めぐり」が人気を集めている。町観光協会が昨秋から始めたが、付近の住民しか知らないような幅一丁に満たない軒先の道を歩くのは、ちょっとした探検気分。ありきたりの観光とは違い、住民の生活も垣間見える飾らない雰囲気意外な人気の要因だ。

(甲中正)

「えっ、こんなところ入っていいの」「迷路みたい」。団体客から思わず驚きの声が上がると、江戸時代に宿場町があった細い飛騨街道から、ガイドはさらに狭い家と家の間の路地へ誘導。一人一人がよちよちと歩く細い道沿いには共同利用の水場や畑、家の洗濯物や勝手口が並び、生活感いっぱい。

「筋骨」は公図に赤線で記され、道路法の適用も受けない狭い公道のこと。

金山 狭い路地裏探検ワクワク

生活感じる幅1丁の軒下

ツアー客「懐かしい」



と。骨格や血管のように、町一帯に張り巡らされてい出ず。それでも「同級生」(こ)は昔飲み「筋骨」と呼ばれるよう井さんと半信半疑た。 became part of the main text.

だが昨秋に町の巨石群と合わせて宣伝すると、も。住民全員がガイドのようになって、お客活感あふれるガイドの解説も人気の一つ。「地元

筋骨めぐりは地元で生まれ育った浅井哲彦さん(こ)と、名古屋から十年前に引っ越してきた岡戸孝明さん(こ)が温めてきたアイデア。「筋骨は子どものころの遊び場。面白さを伝えたい」と浅井さんが言え、岡戸さん「手付かずの路地裏で探検心をあおる。昭和時代の雰囲気が残っては忙しいだ。」「この店の主人は僕と「こ」は昔飲み屋が並んでいてね。生活感あふれるガイドの解説も人気の一つ。「地元